

令和5年度入学 看護学部 社会人選抜・私費外国人留学生選抜 試験問題の出典

種別	大問 番号	著者名	著作物名	書名等	版元
小論文	図1	明治安田生活福祉 研究所・きんざい	親子の関係についての意 識と実態	図1 反抗期はい つか 2016年	明治安田生活 福祉研究所・ きんざい
	図2	ベネッセ教育総合 研究所	放課後の生活時間調査報 告書	図2 小学校5~6 年生の1日の時間 配分 2008年	ベネッセ教育 総合研究所
	—	おおたとしまさ	なぜ中学受験するのか？	2021年 P32-50より 一部改変	光文社

## 看護学部

### 小 論 文 (90分)

#### 注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまでは、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この冊子は、5ページあります。なお、下書き用紙が2枚あります。
- 3 試験中に問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの脱落などがあつた場合は、手を挙げて試験監督者に知らせなさい。
- 4 解答は、必ず黒鉛筆（シャープペンシルも可）で記入し、ボールペンや万年筆などを使用してはいけません。
- 5 解答用紙には、氏名及び受験票と同じ受験番号を忘れずに記入しなさい。
- 6 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
- 7 下書きの必要があれば、下書き用紙を利用してかまいません。
- 8 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰りなさい。

次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。(配点 100 点)

教育学では、小学生段階を初等教育、大学や専門学校を高等教育、その間を中等教育と分類する。中等教育は思春期に重なる。反抗期を中心とした多感な時期をひとまとまりとしてとらえるのが世界の共通認識だ。14 歳くらいからは①ちゅうしょうてき思考の次元が高まり、本格的に哲学や科学ができるようになる。また、自己や社会の相対化が可能になる。理想の視点から現実を眺められるようになるがゆえに、さまざまな②かつとうも味わう。既成の価値観に対する批判的精神も旺盛<sup>おうせい</sup>になり、それが多くの場合、反抗期という形で表れる。大人からすればやっかいな時期だが、子どもにとっては大人になるための大事なプロセスだ。

なぜ日本では、子どもの発達段階を無視した入試制度になっているのか。それを知るには歴史を紐解く必要がある。

日本の旧制中学は、明治時代にイギリスの 5 年制中等教育学校をまねてつくられた。旧制中学は男子校だった。それに相当する女子の教育機関は高等女学校と呼ばれていた。

第二次世界大戦後、中学校までを義務教育にしようと試みたが、小学校の 6 年間に加えてさらに中学校の 5 年間で義務教育化するには資金が足りなかった。そこで、中等教育を前期の中学校、後期の高等学校に分け、中学校までを義務教育にした。つまり「六・三・三」は妥協策だったのだ。

(中 略)

結果として、日本の子どもたちの多くは、高校受験と反抗期を両立しなければいけなくなった。子どもの発達段階から考えて、これは酷である。反抗期が強く出すぎれば、受験勉強がおろそかになり高校入試で希望の進路は実現できないし、受験勉強一辺倒になってしまうと、反抗期を全うできず精神的自立や批判的精神の涵養<sup>かんよう</sup>が不十分になってしまう。

国際的な視点から見て、日本の教育制度の最大の欠点だと私は思う。OECD (経済協力開発機構) の PISA (学習到達度調査) が実施されると、日本の高校生の生活や人生に対する肯定感の低さがたびたび話題になるが、高校入試の間の悪さもその一因になっているのではないか。

(中 略)

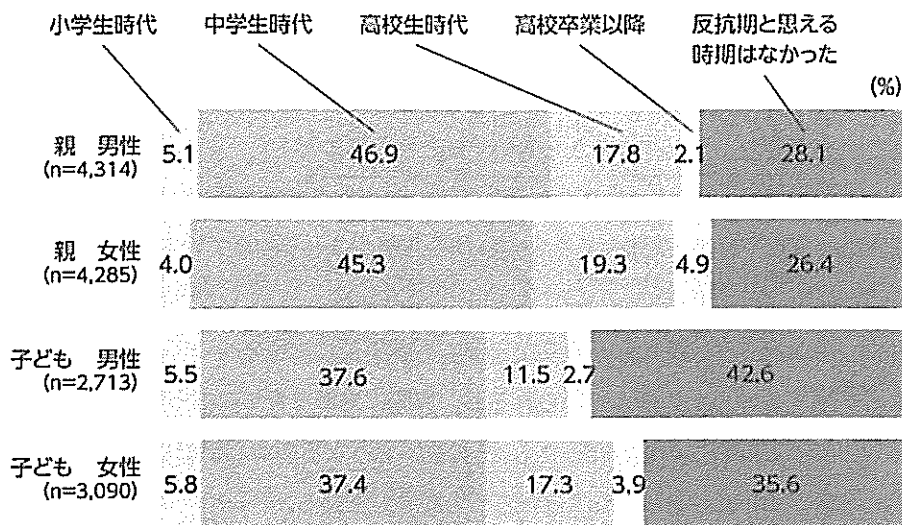
さらに 1990 年代以降は、中学校の成績表に「意欲・関心・態度」の項目が加わった。もともとはペーパーテストの結果だけでなく、数値化されにくい学習姿勢を評価しようという意図だったが、評価者である教員の③しいを拡大する可能性も否めない。

人間は監視されていると感じるだけで自分の行動を抑制してしまうとは、ミシェル・フーコーの『監獄の誕生 監視と処罰』である。多くの中学生は教員の目を気にして“いい子”を演じてしまう。ますます反抗期が骨抜きにされる。

そこで気になるデータがある。

明治安田生活福祉研究所ときんざいが共同で行った調査「親子の関係についての意識と実態に関する調査」(2016 年)によれば、「自分には反抗期がなかった」と答える子どもは、男性で 42.6%、女性で 35.6%にも上る。親世代でも「自分には反抗期がなかった」と答える層が男性で 28.1%、女性で 26.4%いるが、

それよりも大幅に増えている（図1）。



※「親」は35～59歳の男女（中学生～24歳の子をもつ親）。「子」は15～29歳の未婚男女。  
 「親」のデータは、親が自分の反抗期を振り返って回答したもの  
 明治安田生活福祉研究所・きんざい「親子の関係についての意識と実態」（2016年）より

図1. 反抗期はいつか

子どもの発達段階から反抗期が<sup>(4)</sup>ひょうはくされていっているように見える。それが本当だとしたら、精神的自立や批判的精神の涵養が不十分なまま形式上“大人”になってしまう若者が増えていても不思議はない。そのひと個人にとって不幸であるだけでなく、社会にとっての悪影響も計り知れない。

その点、中高一貫校に通えば、高校受験を回避できる。そのぶん、思春期や反抗期を謳歌<sup>おうえか</sup>する余地が生まれる。つまりゆとりである。

2000年代から公立中高一貫校が全国に登場するが、実はこれももともとはいわゆる「ゆとり教育」の一環として始まったものだった。中高一貫校化した公立高校が進学実績を向上させる事例が相次いでいるが、ゆとりの効果は学業だけに限らない。

2018年に東京都が発表した「都立中高一貫教育校検証委員会報告書」によれば、「併設型高校における各種大会・コンクール等での実績について、過去3年間の全国大会以上の出場・受賞実績を見ると、文化・スポーツの双方で実績が挙げられているが、個人での出場・受賞実績は概ね内進生によるものとなっている。内進生については、高校受験のないゆとりを生かして、趣味や部活動など、自分の興味や関心があることに取り組めていることが結果に結び付いているものと考えられる」とのこと。

（中略）

中高一貫校で豊かな思春期を謳歌できる理由はほかにもある。12歳の時点で5歳年上の先輩たちの姿を間近に見られることである。

高校3年生と中学1年生では、体格的にも精神的にも、文字通り大人と子どもほどの違いがある。入学したばかりの中学1年生からしてみれば、高校2年生や3年生は先生よりもおっかない。

しかし同時に不思議に思う。中学2年生や3年生の先輩がさかんに先生たちに<sup>たて</sup>盾突いたりだらけたりしているのに、もっと体格がよくて弁も立つであろう高校生たちが、むしろ先生たちと穏やかに、まるで大人同士のような関係を築いているのはなぜか。

そこではたと気づく。これが成長なんだと。自分たちもいずれこうなるのだと。

その未来の自分に対する信頼感のもとで、やはり自分たちも中学2年生や3年生の時分にはいきがって、先生たちに反抗的態度を示してみたりする。先生たちもいずれは落ち着くことを知っていて、受けて立つ。まるで掌の上で転がすように。

ある中高一貫校の教員は「ちょっと不安定になる時期があっても数年後には落ちついていないに違いないという見通しがあるからこちらもおおらかに構えていられるし、実際に立派な青年になって巣立っていくのを見て頼もしく思える。でももし15歳でお別れだったら、その先がどうなるのか心配でしょうがないし、だからこそ中学生のうちにあれこれ小言を言うてしまうだろうと思う」と語る。

一般的な中学校だと、いきがっている盛りの中学3年生の姿までしか見られない。

いきがっている中学3年生がいてくれるならまだましかもしれない。先述の通り、多くの中学生は、むしろ高校受験のために“いい子”を演じなければいけないプレッシャーの下にいる。中高一貫校で見られるような成長の<sup>⑥</sup>きふくが表れにくい。

他者という鏡を利用できずに自分の成長を実感することは非常に困難だ。

その点、中高一貫校では、思春期ゆえの<sup>⑦</sup>かつとうを高校受験に邪魔されず、しかもそれを乗り越えて行くまでの成長の過程をお互いにつぶさに見ることができる。同じ釜の飯を食ったところか、同じ胎内で生まれたとっていいほどの一体感が生まれる。

中高一貫校の卒業生は一般的な中学校や高校の卒業生よりもつながりが強いとよくいわれるが、それは単に6年間という時間の長さによるのではない。思春期における<sup>⑧</sup>かつとうと成長のストーリー全体をお互いによく知っていることによる部分が大きいだろうと私は思う。

いくら反抗期に重なる時期に高校受験をさせるのが子どもの発達に合っていないとはいっても、小学生に過酷な勉強をさせるほうがもっと子どもの発達を無視しているのではないかという反論があるだろう。

ただし「子どものころは外で思い切り遊んだほうがいい」と言う教育関係者に「子どものころとは具体的に何歳ぐらいまでのことか」と尋ねると、概ね小学校低学年くらいまでという答えが返ってくる。ということとは、やはり10歳を超える小学校高学年くらいからは勉強もしたほうがいいのかという意味となる。

小学生が夜遅くまで勉強するなんておかしいという反論もあるだろう。では実際、中学受験をするのとしないのとでは、生活リズムはどう変わるのか。

ベネッセ教育総合研究所「放課後の生活時間調査報告書」(2008年)の小学校5~6年生を対象にしたデータによれば、「中学受験予定あり群」でも1日8時間9分の睡眠時間を確保できている。(図2)

さらに、「中学受験予定あり群」の1日の勉強時間は「なし群」のそれよりも約100分長いですが、遊びの時間自体は約15分しか減っていない。そもそも現代の小学生の放課後は短いのだ。

5時の鐘が鳴り、帰宅し、夕食をとったあとはテレビ、パソコン、マンガ、本、音楽などのメディアの時

間となる。「中学受験予定なし群」ではここが1日約90分もある。

これをどうとらえるかである。

日がとっぷりと暮れるまで友達と野山を駆けまわって遊べる環境にいるのなら、それはそれで魅力的だ

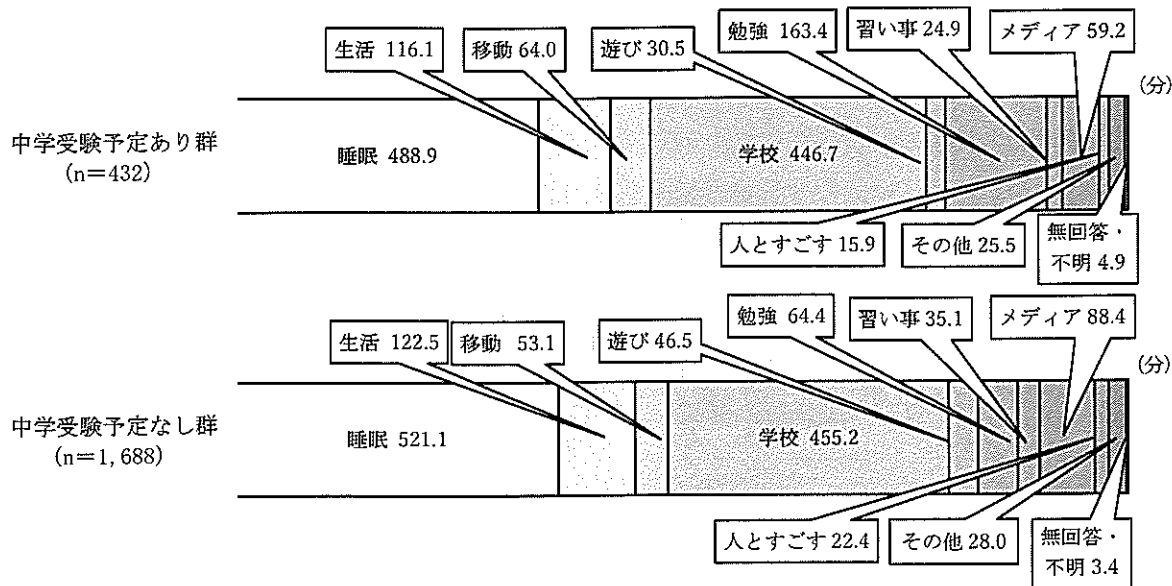


図 2. 小学校 5～6 年生の 1 日の時間配分

が、それができない環境で、結局ゲームしたり、スマホを見たりして時間を潰すことになるのなら、目標に向かって努力する中学受験という経験に、その時間をあててもいいのではないか。そして中学 2～3 年生で、高校受験を気にせず、部活に打ち込んだり、友達と遠出をしたりしたほうが、人間的な成長の糧になる経験が多く得られるかもしれない。

実際ある中学受験生は「いま友達と遊ぶとしても 5 時の鐘が鳴るまで近所の公園で遊ぶかゲームをするか。でも中学 3 年生にもなれば、しかも私立の学校で友達をつくれれば、電車に乗っていろいろなところに遊びに行けるし、友達同士でできることも増えるはず。できることが全然違う。だったらいま我慢したほうがいい」と言っていた。一理も二理もある。

(おおたとしまさ『なぜ中学受験するのか?』, 光文社, 2021 年, pp. 32-50 より, 一部改変)

問1 下線部(1)～(5)を漢字で表しなさい。

問2 作者は、日本の教育制度の問題についてどのように述べているか、本文を踏まえ、200字以内で述べなさい。

問3 以下の( )に入る数字を図2から読み取り、小数第3位を四捨五入して小数第2位まで答えなさい。

「中学受験予定なし群」の1日のメディア時間配分は、「中学受験予定あり群」の( )倍である。

問4 中高一貫教育の意味について、本文を踏まえ、あなたの考えを550字以上600字以内で述べなさい。